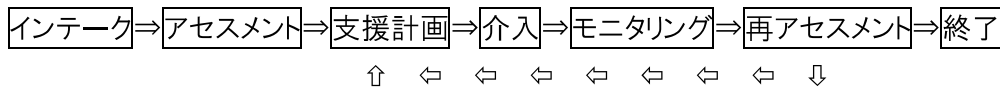


～～用語の説明～～

ケースマネジメント

ケースマネジメントとは、複数の機関が長期にわたって連携しながら援助を行う場合、常に最善の援助体制が確保されるようケースの進捗状況を客観的に把握し、必要に応じて援助の実施体制や援助方法などについて調整(コーディネート)をおこなう活動である。子ども虐待においては複数の解決すべき問題を抱えているケースが多く、長期に援助を展開する必要があることから、このケースマネジメントの手法が適するケースが多い。

ケースマネジメントは、以下のプロセスを遂行しながら子どもや家族を支援していくことであり、このプロセスを管理していくのがケースマネージャーである。ケースマネージャーには、単一の機関とは限らずチームになる場合もある。児童相談所や市町村担当部署あるいは要保護児童対策地域協議会などが想定される。

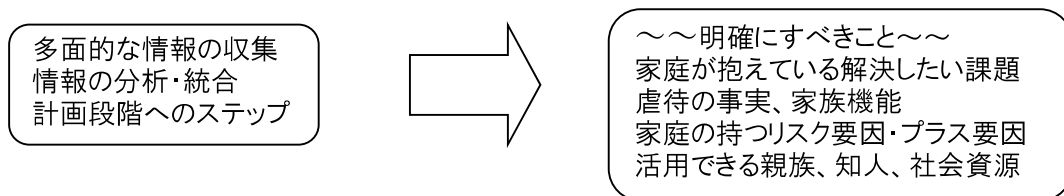


インテーク

利用者との最初の出会いで、心理的サポートをしながら主訴を聴き、利用者の問題の理解や必要最低限の情報を収集し、今後の方針の見極めを行い、次の段階へすすめる大切な入り口である。

アセスメント

アセスメントは子どもや家庭に関する状況把握や情報収集した結果に基づき、虐待の事実、家族が抱える問題、家族の持つリスク要因、プラス要因などを明らかにして、問題解決のための課題や活用できる社会資源を考えて支援計画へと導く一連のプロセス全体のことである。



アセスメントツール

アセスメントに必要な情報は、広範囲なものになり、特に虐待の要因が重なり合っていたり、支援経過の長かったりするケースでは膨大な量となる。情報や課題を整理し支援計画を考えるために各種アセスメントツールとしてジェノグラムやエコマップ、各種アセスメントシート(各種の整理票)をアセスメントの補助手段として活用する。また援助方針・内容の見直しや関係機関との情報共有の際にも役立てることができる。

リスクアセスメントシート

とくにリスクの評価により、子どもの保護の要否判断する際の補助とする客観的指標を用いたシート。必要な情報の漏れがないよう収集し、判断の誤りを防ぐことがねらいである。また、支援の際の情報整理や課題抽出に用いて、支援計画の立案、方針の見直しや関係機関同士の認識の共有に役立てることができる。

支援計画

サービスのゴールを設定し、支援の内容や方針の計画を立てていく。支援の組合せ、どこの誰が、いつ、どれくらいの頻度でおこなうのか、具体的に計画する。

モニタリング

モニタリングとは支援が適切に、計画通りに行われているかを監視する作業である。それらが効果的であるかを支援提供者は支援しながら判断する必要がある。また、ケースマネージャーは各支援提供者や保護者、子どもに直接会うことや電話や会議により確認する。

